

## 医学系研究に関する情報公開文書

研究課題名	高難易度脊椎手術における術中脊髄モニタリングと神経合併症
研究責任者	小林祥
研究機関名	浜松医科大学
研究目的と意義	複雑な脊椎手術では、神経合併症が起こることがあります。その頻度は様々で、一般に1.7%とされますが、とくに、脊柱変形、後縦靭帯骨化症、脊髄腫瘍に対する手術は神経合併症が起こる可能性が高いとされます。神経合併症を予防するため、手術中に脊髄の電気生理学的検査を行い、脊髄機能を監視しています。この検査の詳細な解析により、神経合併症との関連と傾向を把握することは、術後の神経合併症を減らすために有用と考えます。したがって、高難易度脊椎手術における術中脊髄モニタリングと神経合併症の関係を調査することにしました。
研究期間	西暦 2014 年 8 月（倫理委員会承認後） ～ 2017 年 8 月
研究方法	<p>●対象となる患者さん：</p> <p>2010 年 4 月から 2014 年 6 月までの間に、高難易度脊椎手術症例（脊柱変形、脊髄腫瘍、後縦靭帯骨化症）のうち術中脊髄モニタリングをうけるかた。</p> <p>●研究に使用する試料：</p> <p>(1) モニタリング波形図</p> <p>(2) 臨床評価表</p> <p>●研究方法</p> <p>脊髄モニタリング波形の振幅低下や潜時の延長を診断基準として、術前筋力低下の程度は Manual muscle test (MMT) で評価し、MMT と手術最終波形との関係を検討した。手術は通常の方法で行い、術直後の神経所見 (MMT) をとる。術後神経合併症の頻度やモニタリング波形所見の精度について検討します。</p>
問い合わせ先	〒431-3125 浜松市東区半田山一丁目 20 番 1 号 浜松医科大学医学部附属病院 診療科：整形外科 担当者：小林祥 TEL：053-435-2299                      FAX：053-435-2296